

多社等造在軍民百姓之德備巨下櫻事紀憲法之沙
 法物之結ふに神祇社頭家人も神樂奏舞に神氣成り
 一免を呈し君武運長久息災延命を祈精しく外他事
 空もたより交きり明神地もより大將を乞ふに徳神祇世無人
 いたりのりりり江戸町童北吹寄にも有難也此所伐の
 時どけり天より下りて豊なりこれ天下泰平國土安穩とい
 今の時をよす

道富丈吉由緒書

一 父の事 本國阿蘭陀國阿むらてり
 生國肥前國長崎 道富丈吉

一 父の事 父存生之間に申されしと稱す

右に記す如く阿蘭陀國に都阿むらてり
 居んでられたる如く父存生之間に申されしと稱す
 父死後名を継ぎ孫在りて寛政十年年於本國お人
 であらむ如く官を清同十一年に復咬喃吧表口
 お役使すに無極清當地通商の形に系組業者頭勘定役
 相勤六月十六日始る清當地忌仕諸用向相仕清同年秋

海帆仕豐申年復再渡仕五月廿五日由当地着仕某未
 引續在留仕処翌周年復へて了後中付山名入津し和
 中越屋とて及之十年相勤山処享和三年復加比丹職
 中付山名中越當年追拾三年加比丹職相勤在也
 右とて如後加比丹職相勤山内
 江府洋禮并諸所用向相勤山樹とて通之也
 一 文化元子年魯西亞船所当地上渡來仕節所用向首
 尾能相勤中
 一 文化三寅年
 江府洋禮首尾能相勤中

一 文化四卯年魯西亞再松為表上景渡り為一人也譯して
 徳の書手物と強て
 江府洋禮首尾能相勤中
 此の如和解仕及之孫孫付山内阿蘭語とて和解仕及
 上中の如く不盟之辰年春右とて為所獲英所浪三指技中
 一 文化四卯年秋津江又通并操等出情仕為所獲英所浪
 六貫目
 一 文化五辰年四けれ以船所当地上渡來仕節諸所用向相勤
 中
 一 文化七年
 江府洋禮首尾能相勤中右とて節於

上海渡之稱も意未だ明く私身分許付方見届かぬ氣
 仕海國仕分も其扶持をも尚別後持渡の白砂糖之百錢
 拂代銀お借至右三年之浪口費同く私依の上中至業種
 目利或も端物目利又ハ阿蘭陀人ハ文が通詞たよハ誰ハ
 筋ハ新親ハ抱入らる候中ノ振多能ハ致テ余後事ニ多ク上
 江船右稱ハ依テ先例者モ容易ニ難及及津少法筋ハ
 此父と云及是近津用筋時ノ貴行お勤外加比丹と云
 遠の者ハ付格別ノ津使と云津河と云茶文ノ通津作渡ハ
 船と云向後私使諸事ニ地役人一同ノ行取扱ニ難ハ追々
 津役等ハ長付と云新大工町ニ在る祖母方ヨリ寄寄者

中談一書音仕候父と云及并祖母と云外地役人一統ハ
 作渡古今ニ比類なき也 津仁惠ハ

親類書

父方

- 一 祖父 阿蘭陀國阿むきてるむ住居 先 魚んでれぎと云及
- 一 祖母 右の阿れん子と云入てる稱 先 魚んでれつと稱と云及
- 一 父 寛政土未年始ニ渡來仕豐申年 先 魚んでれぎと云及
再渡ハ其左高仕加差職お勤
 存也
- 一 母 長濱新橋所住居 先 魚んでれぎと云及
并極々情配娘
- 一 伯母 阿蘭陀國阿むきてるむ住居 先 魚んでれぎと云及
父と云及婦
- 一 同 右の阿 先 魚んでれぎと云及
あつれむやと云及ハ
 あつれむやと云及ハ
 へんやと云及ハ
 むるへるみやと云及

一 同 右口

母方

一 祖父 新橋町 西指町人

一 祖母

一 伯父 日次

一 伯母 新左町住居

一 従才

一 同

口妹
来るんていふ
無事なれ

去井津之清死

忠母村峯仁平の娘
す急

去井津之

母方
去井津之

去井津之
國を席

作
久次郎

成十一月細川家臣物頭及吉田長元等々所尋
書上

一 相撲之起り

天照太神之時分始に朝廷に
是の事乃れは天未平此法
之裁断定かしく聖武天皇神
乙迎口國志賀の清林と
く式委愛相傳り子孫相續
乃れふ中志賀家も自知と
後鳥羽院文治年中再い角力
の節令て此乃れ志賀家